

外傷性遷延性意識障害患者のBMIと筋肉量・脂肪量の比率

渡邊 幸恵¹、西郷 典子¹、石井 佑美²、山村 博子³、水元 志奈子¹、片岡 恵美子¹、田貝 心平⁴、
八木 良子¹、梶谷 伸顕⁵、衣笠 和孜⁵

¹独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター 看護部、

²独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター 栄養部、

³独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター 薬剤部、

⁴独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター 理学療法、

⁵独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター 診療部

【目的】外傷性遷延性意識障害患者の栄養管理において体重設定はどの位が適切かは報告は少ない。今回我々は、BMIと筋肉量、脂肪量の関係を比較検討したので報告する。【対象と方法】期間は平成24年3月16日から4月11日まで、その間入院していた外傷性遷延性意識障害患者で男性延38名、女性延13名、NASVAスコア平均38.7を対象とした。方法は、男女別々にBMIが-10%未満をA群、-10以上-15%未満をB群、-15%以上-20%未満をC群、-20%以上をD群に分類し、InBody s20 (Biospace社製、米国)を用いて筋肉量と脂肪量を測定し、比較検討した。【結果】男性では、A群9名、B群15名、C群4名、D群10名、骨格筋量（以下A群、B群、C群、D群順）は、20.9kg、21.2kg、19.7kg、19.6kgである。骨格筋率（骨格筋量/体重）は0.35%、0.38%、0.39%、0.43%、脂肪量は、19.1kg、14.8kg、13.0kg、8.17kg、脂肪率（脂肪量/体重）は、32.1%、26.9%、25.6%、17.1%である。女性では、7名、3名、2名、1名で、骨格筋量は、14.2kg、13.8kg、12.9kg、12.9kgである。骨格筋率は28.0%、30.3%、32.7%、30.7%、脂肪量は21.7kg、17.5kg、12.7kg、15.5kg、脂肪率は43.1%、38.7%、32.3%、37%である。【考察】筋肉量はBMIと共に増量傾向だが、比率にすると減少傾向にある。脂肪量・比率は共にBMI増加に伴い増量傾向がある。体重設定は、-10%以上-15%未満が妥当だと考えられる。今後症例を重ね検討し発表する。【結果】男女とも体重増加に関係する因子は、脂肪量と考える。